



近畿印刷産業機材協同組合 理事長 加 貫 順 三

年頭所感 2012

新年あけましておめでとうございます。

2011年国内は、3月11日に起こった東北地方太平洋沖地震とその後の大津波によって、東北地方は太平洋側を中心に壊滅的被害を受けました。また、私たちの地元である近畿地方でも、台風12号に伴う大雨による河川の水位上昇や氾濫により、紀伊半島一帯が浸水、土砂災害等大きな被害を受けました。それ以外にも列島各地で洪水、土砂災害などが多数発生し、まさしく天災が日本列島を集中砲火したような一年でありました。しかも、福島県では、地震と大津波で東京電力の原子力発電所が電源喪失に陥ったことから冷却装置の機能を喪失し、水素爆発や大気中への放射性物質の漏洩が発生し、今なお広範囲にわたって立ち入り禁止区域が設定され、すべての社会的活動が停止されていると同時に、日本社会や経済と国際社会に甚大な影響を与えました。しかもこの放射線漏れ問題は、新規原子力発電所の建設計画中止や休止中原子力発電機の再開の見通しを

立たなくするなど、現代社会のライフラインのひとつである電力の安定供給に黄信号をともしました。

海外でもトルコで大地震が発生しましたし、タイでは台風の影響により数か月にわたり大洪水が続き、農村地域だけでなく首都バンコクまで浸水しました。この洪水によって現地日本企業の生産活動が停止したのは当然のことながら、その影響による部品不足によって、日本国内の工場が生産調整を余儀なくされるなど、日本国内の経済活動に直接影響を及ぼしたことは記憶に新しいことです。

これら一連の現象を、あまりにも利便性だけを追求してきた我々現代人に対して、地球環境をもっと真剣に考えるようにとの天の啓示と思うのは私だけでしょうか。我々は、現在の文化的快適な生活を続けていくうえでも、環境問題を最重要事項としてとらえていかなければならないでしょう。

いま日本は、終戦直後以来の混乱状態で

あるといっても過言ではありません。しかし、我々は「日本の奇跡」とまで言われた戦後復興を成しえた国民であります。必ずやこの難局を乗り越えることができると信じています。そして、この難局を乗り切る一つのキーワードが環境ではないかと考えています。

当協同組合では、昨年10月に「紙と印刷そして環境を考える」と題した講演会を開催いたしました。今年も1月末に「人間科学から見た紙・印刷の価値と新たな可能性」と題した講演会を開催いたします。紙と印刷がいかに持続性のある情報メディアであるかを認識していただく内容になっています。また、2月にもインキと印刷と環境を考える内容の講演会も計画しています。組合員や組合員企業の方々のみならず、印刷関連業界の方々にもぜひご聴講いただき、新たな可能性を探っていただきたいと思います。

最後になりましたが、本年も当協同組合に対しまして倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

平成23年 新春講演会・新年互礼会のご案内

平成24年1月26日(木)、恒例の平成24年「新春講演会」並びに「新年互礼会」をシェラトン都ホテル大阪において開催いたします。

今回の講演会は、講師に(社)日本印刷学会前会長の尾鍋史彦氏(東京大学名誉教授)をお迎えしております。今回の講演会では、人間諸科学から紙と印刷をモノとしてよりはヒトに関わるユニークな材料・技術としてみる新たな視点から価値を見直し、情報メディアが多層的に存在する現代の情報化社会における優位性・持続性を確認し新たな可能性を探っていただき、ひととき閉塞感の漂う大阪の印刷業界関係者に向けて、力と元気を与えるお話をさせていただきますので、組合員ご自身はもとより管理職、営業部門の方々をお誘いの上、是非ご聴講くださいますようお願いいたします。

日時 平成24年1月26日(木) 17:15より
場所 シェラトン都ホテル大阪

大阪市天王寺区上本町6-1-55

【新春講演会】4階 大和の間 17:15~18:45
(演題) 人間科学から見た紙・印刷の価値と
新たな可能性

(講師) 社団法人 日本印刷学会
前会長 尾鍋 史彦 氏

【新年互礼会】3階 志摩の間 19:00~

お申し込みは1月12日(木)まで。